

国際戦略経営研究学会

The International Academy of Strategic Management

NEWSLETTER VOL. 10 No. 1

2021/1/18



(内容)

- 1 会長新年ご挨拶
- 2 2021 年度年次大会のご案内
- 3 2020 年度年次大会のご報告
- 4 第 13 回年次総会のご報告
- 5 2020 年度学会賞受賞者のお知らせ
- 6 編集委員会からのお知らせ
- 7 研究部会からのお知らせ
- 8 事務局からのお知らせ

1. 会長新年ご挨拶

(2021 年を迎えるにあたって)

国際戦略経営研究学会の会員の皆様

新年あけましておめでとうございます。新しい年をお迎えするにあたりまして、当学会の会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

昨年は COVID-19 の感染に始まり、COVID-19 の感染拡大に終わりました。本当に大変な 1 年間でした。国際戦略経営研究学会も、昨年には各種のオンラインによる開催を強いられて、本来の学会のスタイルとは異なる方式で運営されてまいりました。不慣れな点は多々ありましたが、学会員皆様のご支援とご協力のお陰で何とか無事に 1 年間で終了できましたことに御礼申し上げます。

本学会活動も本年度で設立以来 13 年目を迎えて、本年も益々発展することが期待されております。現状では、当学会員数の伸び悩み、国際化の遅れ、更には戦略経営分野の新しい研究活動の必要性などの諸課題が山積しております。本年も会員の諸先生のご協力を賜りながら、ぜひこれらの懸案の課題を解決すべく、対処可能な案件から取り組んでいく所存です。そのためには、会員の諸先生方のご提案やご支援等をいただくことが不可欠です。ご多忙の中お手数おかけしますが、何とぞご協力いただけますようお願い申し上げます。又当学会運営に関する諸活動につきまして、各種のご提案や改善内容などがありましたら、忌憚のないご意見を積極的にいただけますようお願い申し上げます。

感染症の歴史によりますと、過去蔓延した感染症が完全に収束するには 3~4 年の年月必要があったと言われております。昨今のワクチン開発で COVID-19 が今年度早めに収束することを期待するしかありません。当学会員とご家族の皆様方におかれましては、健康にはくれぐれも留意されて、COVID-19 の心配の無い良き新年になりますように祈念いたします。

国際戦略経営研究学会 会長 古屋紀人

[nfuruya\(at\)fb3.so-net.ne.jp](mailto:nfuruya(at)fb3.so-net.ne.jp)

[furuyan\(at\)umsl.edu](mailto:furuyan(at)umsl.edu)

((at) の場所に@を入れてください)

2. 2021 年度年次大会のご案内

2021 年、国際戦略経営研究学会は、9 月 18 (土曜) ~19 日 (日曜) に、中央大学多摩キャンパスにて、対面及びオンラインのハイブリッド形式にて開催をさせていただきます。本年 (これを執筆している時点での 2020 年) にできました、グローバル館をメイン会

場としてさせていただきます。以下がグローバル館のビデオです。

<https://www.youtube.com/watch?v=6OvZRpSaf0I&feature=youtu.be>

統一論題としまして、「レジリエントであり、持続可能である組織の創造—不確実のなかにおいて—」としました。英文は、"Creating resilient and sustainable organizations: Under uncertainties"としました。

つまり、コロナ禍でなく、東日本大震災から 10 周年である 2021 年、不確実性のなかで回復力があり、持続性がある組織の構築が重視されているという問題意識から、この統一論題に至りました。環境と企業との関係、サプライチェーン、日本企業の再生、ガバナンス、国際比較など多様なアプローチがあり、会員の多くの方がご関心をおもち頂けることを期待しています。

さらに、海外のなかで最大の日本企業研究学会である AJBS (Association of Japanese Business Studies) とのジョイントセッションを開催致します。以下が同 website です。

<https://ajbs.org/>

AJBS の学会長にはドイツから、ゲストスピーカーとしてご登壇をして頂く予定です。さらに、AJBS が企画されていますワークショップ (メンタリング・セッション) を、本年次大会のなかでジョイントセッションとして開催を致します。ワークショップであるメンタリングセッションは対面、オンラインのハイブリッドで開催をし、海外からの先生にはオンラインでメンターの役割をしてもらいます。メンタリングセッションは、2トラックあり、1つが研究者むけ、もう1つが学部、修士学生のためです。本学会の会員の方もご参加できますので、研究者向けトラックに奮ってご参加を下さい。大学で教員をされている会員の方であれば、指導をする学生が、学生向けトラックに参加をすることができますので、学生にご案内ください。参加方法につきまして、今後、ご案内致します。

なお、コロナ禍が続いているため、懇親会は、現在のところなしとして準備を進めています。コロナ禍もまだ続き、予定の変更があるかもしれませんが、現在、以上の計画をして、準備をしています。以上、よろしくごお願い申し上げます。

咲川 孝

国際戦略経営研究学会 大会企画運営委員
中央大学 国際経営学部

3. 2020 年度年次大会のご報告

2020 年 10 月 24 日 (土)、青山学院大学 (東京都渋谷区渋谷) において年次大会を開催致しました。オンライン開催を中心としながらも、希望者は、青山学院大学での対面報告も可能というミックス型で実施しました。大会の論題は、「大学発スタートアップ：戦略、組織、起業家育成 (University-affiliated incubators and startups : Strategy, Structure and

Entrepreneurial Education) 」としました。大会の午前中はグローバル・シンポジウムとし、古屋紀人会長の司会のもとで、Allan Bird 氏、Michael Stevens 氏、Mark Mendenhall 氏の 3 人の米国人研究者を迎えてオンライン実施しました。テーマは “How to develop global creative and innovative leaders and organizations through the integration of universities, governmental organizations, and private sectors during the time of pandemic isolation” と題したものです。午後は、招聘講演「KAICO は、世界を救えるかーカイコからコロナワクチン開発」というテーマで九州大学発ベンチャー・KAICO（株）代表取締役社長・大和建太氏による講演を実施しました。

分科会では、自由論題セッション、自由論題英語セッション、院生セッションを設け、31 組の研究発表がありました。分科会と並行して、2つの研究部会による企画シンポジウムがオンライン開催されました。一つは 戦略経営理論・実践研究会主催の「DX 時代のビジネスエコシステム戦略を問う」、もう一つはグローバル戦略研究部会主催の「Management, Organizations, and Strategies during and beyond the Time of the Coronavirus Pandemic」です。大会の参加者はオンラインと対面型の両方で 60~70 名となりました。コロナ禍の影響で予定の変更を余儀なくされ、一日のみの年次大会となりましたが、大きなトラブルや遅延はなく進行することができました。ご参加いただいた会員の皆様をはじめ、報告者、座長役の理事の先生方、ZOOM 進行役・アルバイト皆様に深く感謝申し上げます。

青山学院大学 薄上二郎

4. 第 13 回年次総会のご報告

以下の議題について、10 月 10 日開催の理事会の議を経て、10 月 17 日開催の第 13 回年次総会において審議し、いずれも承認されましたのでご報告申し上げます。

(1) 2019 年度事業報告および収支決算についての事項

事業報告として以下の委員会の報告が行われ、収支決算について承認されました。

- ① 総務企画委員会活動
- ② 大会企画運営委員会活動
- ③ 渉外・国際委員会活動
- ④ 研究部会活動（開催回数）
 - 戦略経営理論・実践研究部会（計 9 回）
 - 戦略財務・会計研究部会（計 5 回）
 - グローバル戦略研究部会（計 2 回）
 - 地方部会（旧関西政策・戦略研究会）（計 6 回）
 - 日本企業再生研究部会研究会（計 1 回）

⑤ 学会誌編纂委員会活動

- JOURNAL OF STRATEGIC MANAGEMENT STUDIES (JSMS : 英文, 査読ジャーナル) Vol.10, No.1 を 2019 年 10 月 22 日に発行。
- 戦略経営ジャーナル (日本語, 査読電子ジャーナル) Vol.7, No.1 を 2020 年 1 月に発行。Vol.7, No.2 を 2020 年 7 月に発行。

(2)監査報告についての事項

学会会則第 31 条に従い, 安部博文, 伊藤富佐雄監事の監査を受け, 「決算報告書は収支支出の状況及び財産の有りを正しく示している」ことが報告されました。

(3)2020 年度事業計画および収支予算についての事項

これまで通りの研究会活動, 学会誌の発行を継続して行うことが確認されました。

(4)会員数の現状について

正会員数	286 名
準会員数	7 名
名誉会員	1 名
顧問	2 名
合計	296 名

5. 2020 年度学会賞受賞者のお知らせ

2020 年度学会賞受賞者が次のとおり決定いたしました。

学会賞 (論文部門) :

高桑 健太郎(株式会社レアソン)

対象論文"Multilevel Product Differentiation in The Smartphone Market"

Journal of Strategic Management Studies, Vol.11, No.1

学会賞 (著書部門) : 該当者なし

学会賞は, 戦略経営に関する理論または実践について貢献するところが大きいと認めた本学会員を表彰し, 本学会, 及び戦略経営の理論と実践の発展をはかることを目的とし創設されました。2020 年度の今回が 2 回目です。戦略経営に関する理論または実践の発展に貢献するところが顕著であると認めた論文を執筆した, 本学会員に論文部門賞を授与する学会賞 (論文部門) と, 戦略経営に関する理論または実践の発展に貢献するところが顕著であると認めた著書を執筆した, 本学会員に同賞を授与する学会賞 (著書部門) があります。

学会賞（論文部門）については、2019年4月1日より2020年3月31日までに刊行された“Journal of Strategic Management Studies”および『戦略経営ジャーナル』に掲載された査読論文を対象とし、審査委員会により審査を行い、受賞候補を選定し、最終的に常任理事会によって決定しました。

学会賞（著書部門）については、2019年4月1日より2020年3月31日までに刊行された本学会員による単著、共著（第一著者が本学会員であること）が対象で、学会員から自薦または他薦されたものが候補でしたが、今回は残念ながら該当者なしとなりました。

2021年度も引き続き、学会賞の選考を行います。論文部門は2020年4月1日より2021年3月31日までに刊行された“Journal of Strategic Management Studies”および『戦略経営ジャーナル』に掲載された査読論文が対象となります。また、著書部門については、4月以降に改めて自薦他薦の公募を案内いたします。会員のみなさまには、ご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

6. 編集委員会からのお知らせ

既に昨年11月30日に会員宛メールでお知らせしました通り、編集委員会では、英文ジャーナルである JSMS (Journal of Strategic Management Studies) の Vol. 13, No. 1 (Sep. 2021 発行予定)」にて下記要領で原稿を募集致しますので、奮ってご投稿くださいますよう、お願い申し上げます。

編纂委員会 特集編集チーム 河合 忠彦
野間口 隆郎

記

(1) 特集テーマ：Survival Strategies of the Japanese Businesses in the Era of IoT

趣旨

JSMS ではここ数年、IoT/AI ないし GAFA/5G 時代の到来を踏まえて、プラットフォーム理論やダイナミック・ケイパビリティ論からのアプローチを中心とした特集を組んできましたが、本年度は、研究分野ではなく、サバイバルに取り組んでいる企業に焦点を当てた特集を組むことと致しました。多くの企業/産業が程度の差はあれ IoT 化の影響を受けつつあり、それらの企業についての様々のアプローチからの研究が必要ではないかと考えました。皆様の積極的なご投稿をお願い致します。

なお、本テーマは現在進行中の現象に関わりますので、結果の確定した現象を対象とする通常の論文のような厳密なアプローチの適用は困難ですが、単純な現状報告ではなく、現状を何らかのアプローチによって分析し、そのパフォーマンスの現時点での評価を行い、さらにそれにもとづいて今後取るべき方策を提案する、という形のものと考えております。

ご投稿の採否の審査は特集編集チーム（2名。他1名が加わる可能性あり）で行い、採択

された論文は「招待論文」として JSMS に掲載されます。なお、「査読論文」としての投稿をご希望の場合には JSMS の正規の査読手続きに従って査読され、採択された論文は「査読論文」として掲載されます。また、査読論文としてはパスしなかった場合、「招待論文」としての掲載をご希望であれば、同論文の審査手続きに従って審査されることとなります。

なお、来年度から非会員の方でも、査読料を支払えば投稿可能になりました。投稿時に 4,000 円支払い、査読をパスして掲載された場合には残額の 5,000 円を追加して支払い、査読をパスしなかった場合は残額を支払わなくても良いという仕組みです。この方式で非会員の方への投稿勧誘もお願い致します。

(2) 原稿提出期限：2021 年 5 月 31 日

(3) 論文原稿の提出先：editor@iasm.jp ((at) の場所に@を入れてください)

(4) 注意：通常の投稿と同じですが、特に次の点に注意してください。

- ・ 投稿原稿は JSMS の執筆要領（下記 URL）に準拠して作成してください。

URL：http://iasm.jp/english_activity5.html

- ・ 英語は必ずネイティブチェックを受けて下さい。
- ・ 投稿に関して不明点がございましたら、論文編集委員会（JSMS）委員（河合）宛てにご連絡をお願いいたします。メールアドレスは下記です。

メールアドレス：mjkrota8@vega.ocn.ne.jp ((at) の場所に@を入れてください)

7. 研究部会からのお知らせ

地方部会の開催と地方の問題

昨年度よりこれまでの関西部会を改組し、新たに地方部会として発足した。

本学会は、発足の経緯もあり、会員は首都圏の割合が多い。本学会の会員拡大のためには、地方での会員拡大が求められる。地方部会がそのきっかけになればよい。

地方での部会開催は、首都圏とは異なり動員に問題が出る。かつて、強引に関西で開催したものの、参加者の大部分はその参加のために出張する事態であった。その後、和歌山大学と共催等、工夫して開催してきたが、その難しさはそのままであった。

一方、現在も続くコロナ禍は収束の気配を見せない。地方部会もその混乱の中で発足したもののその混乱と関係者も含め大学も対応に追われ、開催が困難であった。しかし、その混乱にも徐々に対応が可能となってきた。そして、このコロナ禍によって整備されたオンラインの環境は、地方部会の新たな可能性を開くこととなった。オンラインによって、参加者の居住や勤務地に左右されず参加が可能になったことである。

地方部会は、地方での会員獲得とともに、地方そのものの問題を取り上げる。本学会は国際の名を冠し、普遍性を持ち、国を超えて通用する理論や概念の深化を訴求する。だが、一方、世界は国々の集合であり、国はそれぞれの地域の集合である以上、地域の問題を無視するわけにはいかない。地方の問題とは、首都圏から距離があることによって起因する問題である。それは多くマイナスのニュアンスをもって語られる。そのマイナスをいかに克服するか。

また、首都圏から距離があることにもプラスの面がある。それは、多様性の問題である。地方が持つ多様な歴史や文化はそれぞれ path dependence として企業や社会に影響する。それは主流が持ちえない視点や解決の方法を提示することがあり得るだろう。地方部会がその一助になることを期待したい。

福井県立大学経済学部
北島啓嗣

8. 事務局からのお知らせ

(1) 会費納入のお願い

日頃より学会活動にご尽力いただきありがとうございます。学会活動は会員の皆様の会費がベースです。皆様には、本年度の学会費納入をお願いいたします。

過年度分の学会費が未納の場合には、今後発刊する学会誌が送付されません。また、会費を3年間滞納した場合には会則第8条第4号に基づいて会員資格が失われます。

以上をご留意の上、早期の会費納入につきましてご協力をお願いいたします。

年会費は正会員 8,000 円、準会員（学生） 5,000 円です。指定口座は次のとおりです。

銀行名 : ゆうちょ銀行 口座番号: 00120-3-585264

口座名義: 国際戦略経営研究学会

なお、会費納入に当たっては必ずフルネームをご記入下さい。特に校費等で振込を行う場合など、大学から学会宛に直接振り込みが行われる際にはご注意下さい。

(2) 住所等変更の際のご連絡のお願い

所属・ご住所・メールアドレス等を変更された方は、速やかに学会事務局までご連絡ください。準会員で入会された方も、学生の身分を離れた場合には正会員になりますので、学会事務局までお申し出下さい。

(3) 活気溢れる学会運営のため、お知り合いの方には是非当学会への入会をお勧め下さい。ご不明の点がありましたら、下記学会事務局までお問い合わせください。

#####

国際戦略経営研究学会 (IASM)

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター

電話 03-6824-9369・FAX 03-5227-8631

平日 9:00～12:00 13:00～17:00(土日・祝日を除く)

iasm-post(at)bunken.co.jp (at)の場所に@をお入れください

#####

写真：雪の日の新潟大学